

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月 10日現在

機関番号：32665

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2010～2011

課題番号：22820061

研究課題名（和文） 帝国日本における出版市場の再編と合法・非合法商品の資本化に関する研究

研究課題名（英文） Research Regarding the Reorganization of Publishing Markets in Imperial Japan, and the Capitalization of Legal and Illegal Materials

研究代表者

高 榮蘭 (KO YOUNG-RAN)

日本大学・文理学部・准教授

研究者番号：30579107

研究成果の概要（和文）：日本帝国において資本主義的システムが形成されつつあった1920年代～1930年代に焦点を当て、改造社・中央公論社・戦旗社などから出された、「社会主義」をめぐる合法・非合法の商品が、植民地での市場拡大を試みながら競争していたことに注目した。書物の複雑な移動と交錯に注目し、日本語書物の生産・移動・消費にかかわっていた地域の研究者との連携も図ることによって、「日本近代文学」というナショナルな領土性を担保に内向きの発言で充填されていた、帝国日本の出版システムや文化商品としての「文学」の枠組みを捉えなおすことが出来た。

研究成果の概要（英文）：Focusing on the period between the 1920s and the 1930s when the capitalist system was being formed in imperial Japan, I examined the ways in which legal and illegal materials related to “socialism” published by Kaizōsha, Chūō Kōronsha, and Senkisha, competed with each other in the race for market expansion in the colonies. Paying attention to the complicated movements and mixtures of texts, it has been my aim to collaborate with Korean researchers to reconsider the publishing system of Imperial Japan and the structure of literature as a cultural product, in which the national territory of “modern Japanese literature” was refueled by self-directed expressions.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,210,000	363,000	1,573,000
2011年度	1,110,000	333,000	1,443,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,320,000	696,000	3,016,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、日本文学

キーワード：占領・検閲・出版・社会主義・植民地・朝鮮・出版資本主義

## 1. 研究開始当初の背景

拙著『戦後というイデオロギー 歴史/記憶/文化』（2010）では、主に、日本人と朝鮮人による連帯・抵抗の言説について研究した。それらの研究を通して、一九四五年以前の帝国日本の領土内において、日本語・朝鮮語の書物や書き手の移動は、民族別・言語別の境界が所与の前提になり得ないことに気づいた。拙著を執筆しながら、1930年前後における市場再編に注目するようになり、韓国・日本・アメリカの研究者と日本の書物の流通について議論する過程で見えてきたのが、日本語と朝鮮語の書物、とりわけ合法・非合法の商品の資本化をめぐる問題である。

## 2. 研究の目的

(1) 合法・非合法商品の資本化について考えたい。

1930年前後、日本の出版市場は再編されることになる。その過程で浮上したのが「植民地」という市場である。とりわけ、改造社・中央公論社・戦旗社などから出された、「社会主義」をめぐる合法・非合法の商品が、植民地での市場拡大を試みながら競争していたことに注目する。発売禁止になることの多かった雑誌『戦旗』など、非合法的書物の移動経路を、戦旗社やナップ社、日本内務省、朝鮮総督府の資料などを参照しながら調べることによって、商業資本とはどのような差異化をはかりながら、「非合法」商品の資本化に成功したのかについて明らかにしたい。それと同時に、朝鮮のメディアにおける日本語とハングル書物の広告合戦と消費コードの編成について考えることになるだろう。これらの作業を通して、「資本権力」の宗主国側と「従順な消費者・抵抗する主体」として

の植民地側という視点を解体し、内地と植民地の支配政策（例えば、検閲のシステム）の差異などと駆け引きしながら、内地と植民地において生成される文化資本をめぐる消費コードの問題を明らかにしたい。

(2) 帝国日本における検閲システムと書物の移動と受容について考えたい。

近年の重要な研究成果として、旧植民地時代の帝国大学をはじめとする、図書館の日本語蔵書について、調査・研究が進められている。しかし、商業ベースにおける日本語書物の流通の研究については、資料それ自体が乏しいという制約があったといえよう。「改造社を中心とする20世紀日本のジャーナリズムと知的言説をめぐる総合的研究」（2005年度～2008年度、科学研究費補助金、基盤研究C、研究代表者：松村友視、課題番号：17520126）に参加した経験、そしてそこで発掘された新しい資料の分析を手がかりとしながら、植民地では出版が厳しかった朝鮮語による社会主義関係の書物が、帝国日本の検閲と駆け引きしながら、上海・アメリカ・東京などで刊行され、朝鮮へ輸入商品として搬入される過程を明らかにしたい。

(3) (1)と(2)で明らかにした結果を、検閲・書物の流通と受容の問題について研究している韓国・台湾・中国・アメリカの研究者との国際ワークショップを企画し、公開するとともに、その場で行われた議論を学術論文（英語・日本語・韓国語）として発表することによって、今後の研究・交流の進展に寄与したい。

### 3. 研究の方法

文化コードとは、高度の抽象的な理論として構築されることも、生活感情・意識・欲望の形態で具体化されることもある。当時の帝国日本の支配空間に流通していた合法・非合法的な文化資源は、社会主義の抵抗運動や植民地の民族主義的独立運動のネットワーク、そして帝国の支配政策などの政治的イデオロギーとしてだけ存在しているわけではない。これらはメディア・小説・映像・ラジオなど様々な文化媒体の中に刻み込まれていたが、他にも帝国日本の商品が消費されていた内地・朝鮮・台湾・アメリカのメディア媒体における広告資料、日本の内務省・朝鮮総督府の検閲資料、日本の国会図書館・国立中央図書館・韓国の国会図書館・ソウル大学図書館・成均館大学図書館・延世大学の所蔵資料も調査し、分析しなければならない。そのため、現地に赴き、資料を収集・分析することになるだろう。これらの資料を分析対象としながら、文化資本としての書物の移動、いわゆる合法・非合法的商品の資本化について研究する。

具体的な研究の方向性としては、①新しい研究をスタートさせるための研究資料の構築（資料の分析・調査・研究を含む）、②韓国・中国・アメリカにおける日本語・朝鮮語書物の流通・検閲をめぐる共同研究との連携、③国際ワークショップを企画・開催し、複数の言語による領域横断的な成果の公表を試みることになる。その過程で、他の言語・専門の研究者からの知識提供だけでなく、資料の調査をする際には、日本・韓国・アメリカの大学院生やポストドクターからの研究補助をうけることになるだろう。このような作業のプロセスを通して、単なる個人研究の進展のみならず、

国内外の関連研究とつながっていくことになるだろう。

### 4. 研究成果

#### (1) 2010 年度

日本帝国において資本主義的システムが形成されつつあった 1920 年代～1930 年代に焦点を当て、「社会主義」をめぐる合法・非合法の商品が、植民地での市場拡大を試みながらどのように競争していたのかについて注目した。研究初年度である 2010 年は、以下の三つの点に中点を置いて研究を進めた。

①新しい研究をスタートさせるための研究資料の構築（資料の調査・分析を含む）。韓国のソウル大学、国立国会図書館、成均館大学図書館やアメリカのシカゴ大学図書館で調査をした。

②韓国・アメリカにおける日本語・朝鮮語書物の流通・検閲をめぐる共同研究との連携。韓国の検閲研究グループとの共同研究を発足させた。シカゴ大学の *Rethinking Hihyō* をめぐるワークショップに参加し、日本帝国と GHQ による支配システムの差異と、書物の資本化の問題を接続させる回路を見出すことが出来た。

③国際ワークショップを企画・開催し、複数の言語による領域横断的な成果の公表を試みた。2011 年 2 月 27 日には、韓国から韓国文学/文化研究者を招聘し、「行為体・媒介・移動」をめぐるワークショップを行った。また、カナダ McGill 大学の Adrienne Carey Hurley 教授による『Documentary History of Anarchism in Japan』出版計画にも参加している。

#### (2) 2011 年度

①新しい研究をスタートさせるための研究資料の構築（資料の調査・分析を含む）。日本帝国の領土内では流通が困難であった非合法的書物が米国で作られ、植民地朝鮮に輸

入されていたことに注目し、その手がかりを求め、THE KOREA SOCIETY、ハーバード大学、米議会図書館などで調査を行った。

②韓国・アメリカにおける日本語・朝鮮語書物の流通・検閲をめぐる共同研究との連携。ワシントン大学で、日本語書物の南米や北米への流通を専門とする E. Mack 教授と共同授業と共同調査を行った。また、韓国の検閲研究者らと2回のワークショップ（東京とソウル）を開催した。

③国際ワークショップを企画・開催し、複数の言語による領域横断的な成果の公表を試みた。日本語と英語による『検閲・メディア・文学』（新曜社、2012・4）の刊行に参加した。奈良教育大学の中谷いずみと連携し、「接続の政治学」という国際ワークショップを2回（7月、12月）開催した。大妻女子大学の五味典嗣と連携し、日米韓の書物の流通に関する専門家を招聘し、国際ワークショップ「1930/1960、制度・資本・移動」を開催した。また、引き続き、カナダ McGill 大学の Adrienne Carey Hurley 教授による『Documentary History of Anarchism in Japan』出版計画に参加している。

日本、韓国、アメリカにおける検閲、書物の資本化の問題を、異なる言語・異なる専門分野・異なる地域で活動する研究者とのネットワークを構築することによって、より複合的な側面から捉える基盤が形成されつつある。その意味において、最初に提出した研究目標を充分達成することが出来たと思う。

（3）当該分野におけるこの研究の学術的な特徴・独創的な点及び研究結果と意義：  
冷戦崩壊以後、「戦後」的な枠組みを乗り越える方法として、「ポスト・コロニアル」視点からの「近代」の分節化が試みられている。とはいえ、内地と植民地の文化形成については、個別領域での発言に留まっている傾向が強

い。例えば、文学研究の領域においては、当時の複合的な文化の交通に注目することなく、旧植民地出身者によるテキストを「日本語文学」と名付け、「日本文学」と線引きしている。ここで、「日本近代文学」の編成は、「植民地文学」の編成と分離可能なものとして捉えられている。一方、韓国で、日本語テキストは、「韓国文学」という領域のアイデンティティを補完するポスト・コロニアルのしるしとして位置づけられている。

本研究では、倫理的な呪縛に陥りやすい「日本帝国時代」をめぐる、既存の学問の枠組みを超え、日本の支配空間における同時代の文化資本の交錯に注目した。ここでは、思想や政治の言説、新聞、雑誌メディアなどのジャーナリズムの動向を分析することで、「日本」「韓国」など現在のナショナル・ヒストリーに還元されない視点を見出すために努力した。この作業を通し、人文学的知の再構築を試みている歴史学・社会学研究者らとの対話にも積極的に参加している。また、日本、韓国、アメリカにおける検閲、書物の資本化の問題を、異なる言語・異なる専門分野・異なる地域で活動する研究者とのネットワークを構築することによって、より複合的な側面から捉える基盤が形成されつつある。その意味において、最初に提出した研究目標を充分達成することが出来たと思う。

##### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

- ①高榮蘭、「拡張する検閲〈帝国〉と〈非合法〉商品—玄海灘に交錯する雑誌『戦旗』の読者網」、十重田裕一 他編『検閲・メディア・文学』、査読無、2012、新曜社、pp. 222—229

- ②高榮蘭、座談会「新自由主義と大学」、週間金曜日社『週間金曜日』、884号、査読無、2012、pp. 30-33
- ③高榮蘭、座談会「女性における自己と他者」、東京大学UTCP『〈時代〉の闕—戦後日本の文学と真理』、査読無、2012、pp. 147-162
- ④高榮蘭、「国家の顔という陥穽—文化政治の場における「樋口一葉」と『青鞥』」、岩波書店『文学』、隔月刊第12巻4号、査読無、2011、pp. 201-214
- ⑤高榮蘭、「「物語—歴史」から「私」を奪還せよ！—星野智幸『ロンリー・ハーツ・キラー』—」、日本文学協会『日本文学』、第60巻7号、査読有、2011、pp. 56-59
- ⑥高榮蘭、翻訳：千政煥「一九三九、植民地朝鮮における読書（Ⅱ）」日本大学文理学部人文科学研究所『研究紀要』82号、査読有、2011、pp. 13-22
- ⑦高榮蘭、翻訳：千政煥「一九三九、植民地朝鮮における読書（Ⅰ）」日本大学文理学部人文科学研究所『研究紀要』81号、査読有、2011、pp. 29-44

[学会発表] (計7件)

- ①高榮蘭、「占領・民族・検閲という遠近法—防‘朝鮮／韓国戦争’あるいは‘分裂／分断’、『記憶の承認をめぐって』、2012年3月17日、学シンポジウム「近代検閲と東アジアⅡ」成均館大学 東アジア学院・人文韓国（HK）事業団共催、成均館大学、韓国
- ②高榮蘭、「情動の言語化をめぐる政治学—2011・メディア媒体とフィクションの駆引きから—」、2012年3月5日、グローバルCOE・UTCP ファイナルシンポジウム2012「カタストロフィーと共生の哲学」、東京大学
- ③高榮蘭、「「検閲」帝国の生成と「非合法」という戦略—『戦旗』と『無産者新聞』を軸に」、2011年10月9日、ワークショップ「1930/1960、制度・資本・移動」、

科研費（研究スタート支援）帝国日本における出版市場の再編と合法・非合法商品の資本化に関する研究（研究代表：高榮蘭）；（若手B）《文学》の生存戦略—戦時下日本語文学の再審に向けて—（研究代表：五味淵典嗣）共催、大妻女子大学

- ④高榮蘭、「「1955」という遠近法—金達寿「日本の冬」と記憶の抗争」、2011年3月5日、「Rethinking *Hihyō*: The Politics of Literature and the Literature of Politics in Early Postwar Japan」、The University of Chicago's Center for East Asian Studies、アメリカ
- ⑤高榮蘭、「「1950」をめぐる記憶の抗争—新聞『アカハタ』における朝鮮人表象を軸に—」、2011年2月11日、ワークショップ「アジア市民社会と歴史認識—アジア共同体にアプローチするための方法論をめぐって」大阪産業大学経済学部アジア共同体研究センター、大阪産業大学
- ⑥高榮蘭、「翻訳・位置・機能—1980年代における「文学」と「危機」の交錯—」（パネル、継続テーマ「理論は、今」）、2010年10月24日、日本近代文学会秋季大会、三重大学
- ⑦高榮蘭、「非合法」商品の資本化をめぐる攻—1930年前後における出版市場と雑誌戦旗』の戦略」、2010年7月3日、日本文国文学会大会、日本大学文理学部

[図書] (計3件)

- ①高榮蘭、藤原書店、『戦後というイデオロギー—歴史／記憶／文化』2010、376
- ②高榮蘭、他、J&C『日本学研究の地平と再点検』（韓国語）、2011年2月、506
- ③高榮蘭、他、歴史批評社、共訳『暗殺というスキャンダル』（原題；内藤千珠子『帝国と暗殺』）2011

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

高 榮 蘭 (KO YOUNG-RAN)  
日本大学・文理学部・准教授

研究者番号 : 30579107

(2) 研究分担者  
なし

(3) 連携研究者  
なし